

教育実践報告「ベトナム語教育の可能性-理論と実践：VSLの方法論」

The Feasibility of Teaching Vietnamese - A Case of VSL Methods: Teaching Vietnamese to Speakers of Other Languages (TVSOL)

清水英里 SHIMIZU Eri 神田外語学院 Kanda Institute of Foreign Languages

1. はじめに

現在、世界的にベトナム語教育の需要が増えている。日本においても各大学だけではなく数々の教育機関において日本語話者向けのベトナム語教育機関は増加する一方でありその内容やカリキュラムも非常に充実している。一方でベトナム語教授法については現場ごとの実践に任されている面は否めない。

ベトナム国家大学ハノイ人文社会大学のベトナム学ベトナム語科 (Vietnamese Studies & Language 以下 VSL と表記する) においては、こういった状況に対応するためにベトナム語教授法の研究と実践を行っている。また昨今ではベトナム語教育教員養成カリキュラムなどを充実させている。この報告ではこういった VSL のベトナム語教育の活動について紹介したいⁱ。

2. VSL のベトナム国家大学での位置づけ

ベトナム国家大学ハノイ校は 7 つの大学によって構成されそのうちの 1 つがハノイ人文社会科学大学である。ベトナム学ベトナム語科はハノイ人文社会科学大学に所属している。1968 年、ハノイ人文社会科学大学の前身であるハノイ総合大学にてベトナム語科が設立された。1995 年に外国人のためのベトナム語ベトナム文化科に名前を変える。2008 年、ベトナム学ベトナム語科に編成され直され、現在に至る。何度かの再編成をしつつも、60 年以上に渡りベトナム語・ベトナム文化教育を行ってきた。

1980 年代に入り、カンボジアの各教育機関においてベトナム語を教える教員の需要が急激に高まったⁱⁱ。ハノイ総合大学とハノイ外国語大学(現ハノイ大学)の外国語学部から何百人ものベトナム語教員を派遣することになる。教員達はハノイ総合大学のベトナム語学科にてベトナム語教授法を約半月ほどという短い期間で学習してからカンボジアに派遣された。ベトナム語を外国語として教育するための教員養成の基礎が出来上がった時代である。これはハノイ外国語大学が 1990 年代の冒頭から外国人のためのベトナム語教育センターを設立した基礎でもある。2014 年にハノイ人文社会科学大学ベトナム学ベトナム語学科において「外国人のためのベトナム語教育教員養成カリキュラム」が成立した。英語の Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) の表現から取り Teaching Vietnamese to Speakers of Other Languages (TVSOL) と彼らは呼んでいる。

VSL は現在、自身の科の学生・短期~長期の留学生・国外からの現地研修へのベトナム語教育だけではなく「外国人のためのベトナム語教育教員養成カリキュラム」を実践し、専門的なベトナム語教員養成に力を入れている。

3. VSL の理念

ベトナム語を話せるまたはベトナム語学科を卒業したからといってそれだけですぐさま良いベトナム語教員になれるわけではない。ベトナム語教員は語学教授法をはじめ様々な言語学の基礎的な知識を学ぶ必要がある。ベトナム語教員になるための必須の条件や基礎的な知識を以下のように Nguyễn Thiện Nam 博士はあげる。

ⁱ 以下 Nguyễn Thiện Nam 博士の論文・発表原稿(a)(b)の中の情報を使用する。

ⁱⁱ 1970 年代後半にベトナム正規軍がカンボジアに侵攻し、以降長らくベトナム親和政権がカンボジアを統治することになる。

- 1) 教員になるための十分な素質
- 2) 言語と言語学についての知識
- 3) ベトナム語についての基礎的な知識（歴史・語音・語彙・句法・用法などを含む）
- 4) 語学教授法についての基礎的な知識・様々な状況での教育場面におけるその知識の応用
- 5) クラスコントロール
- 6) ベトナム文化と文化の多様性への深い理解
- 7) 外国語を学んだ経験

また、言語とそれに関連する情報をアップデートしていく必要があるとしている。

例として母語を習得する過程の発展段階、書くことと話すことの関係性、標準語についての概念、言語の多様性、地方の言語（方言）、言語に触れること、言語と思想、言語と文学などである。言語学の知識に関連する情報について教員はこれらの情報を選び供給する必要がある。これらの情報を補充するための勉強も必要であるとしている。

これ以外にも様々な環境や言語文化背景を持つ学生・生徒に対応できる柔軟性を持つ個々人の素質が必要であるとしている。

4. TVSOL カリキュラムの内容

TVSOL を基にした「外国人のためのベトナム語教育教員養成カリキュラム」においては以下の構成になっている。

- 1) 言語・言語学とベトナム語についての概要(15 コマ)
- 2) 世界での語学教授法と外国人のためのベトナム語教育への応用(12 コマ)
- 3) 外国人にベトナム語の語音を教える方法とスキル(12 コマ)
- 4) 外国人にベトナム語の語彙を教える方法とスキル(12 コマ)
- 5) 外国人にベトナム語の文法を教える教授法とスキル(15 コマ)
- 6) 学習計画・教科書とそれ以外も含めた教材を使う教育設計の方法とスキル(12 コマ)
- 7) 言語を通してベトナム文化を教える方法：ベトナム語を学ぶ外国人の間違いを修正する方法(12 コマ)
- 8) 実践(60 コマ)

これらの構成で将来教員になる学生の教員教育 teacher education とすでに教員になっている人のさらなるトレーニング teacher training を行っている。ハノイに在住して学ぶカリキュラムの他に夏の期間に短期で海外においてすでに教員として働いている人達向けのトレーニングカリキュラムも施行されており、年々受講する人数は増加している。

これらの VSL の TVSOL カリキュラムは、ベトナム国内だけではなく世界中でのベトナム語教育の需要の高まりに対応している。

2018 年、台湾では小学校と中学校にて選択科目としてベトナム語が採用され、同年には少なくとも 2000 名のベトナム語教員が各小学校に必要とされることになった。VSL は 2014 年以降 100 名以上の学生が受講する 5 課程を開講し、これらの要望に応えた。それ以外にもタイにおいては 40 名以上の学生が受講する 1 課程を開講し、Vinh Long 大学にて 15 名以上の学生が受講する課程を開講した。

このように VSL は自身の科に所属する学生に対するベトナム語教育だけではなくベトナム国内外において TVSOL を発展させている。今後、ベトナム語教育の最前線として大きく発展していくであろう。

5. 筆者が体験した VSL におけるベトナム語教育

2017年8月、筆者が講師として勤務する教育機関の短期現地研修がVSLにて行われた。筆者も授業の見学を許可され、学生達と共にTVSOLを体感する経験を得た。

1日90分2コマのクラスが平日行われ、空いた時間は学生それぞれが観光や友人作りなどができるように自由時間を設けている。計12日間の授業であった。

1クラス10人前後のクラスで形成されていたがベトナム語能力のばらつきが大きいクラスであり不安要因であった。しかし日本においては逆にそれが学生達を奮起させる要因にもなっていた。1クラスに1人の教員と1人のアシスタントがつく。毎日同じ教員ではなく日本において教えた経験があり日本語ができるベテラン教員と、日本語は全くわからず英語で教える若手の教員とで構成されていた。ベテラン教員でのクラスでは主に文法事項を正式に学び、若手教員のクラスにおいては様々な手法を用いて学んだ文法事項を身につけ応用するためのクラスであった。ベトナム語を専科コースとはしていない学校の短期の夏の現地研修ということで、こういった緩急がついたクラス構成が学生達には非常に刺激的であった様子である。学生達は、教科書はもちろんのことパワーポイントや自身の体を使ったボディランゲージなど様々な手段を用いて学習していった。発話する機会を学生達に非常に多く与え、また間違いを直す際にも厳しく指摘するよりもより正しい知識のほうに学生を導くスタイルであり、学生が自ら間違いを修正できた場合には多いに誉める教育法であった。最終日には総まとめとして自分たちで作文したデータにてベトナム語でプレゼンテーションを行った。短い期間ではあったが、毎日宿での課題もあり自然とベトナム語における4技能を習得する研修として構成されていた。また、間違いを直す方法や最後にプレゼンテーションを行わせることなどから成功体験を非常に重視しているように見受けられた。もしもう少し期間が長ければベトナム料理調理体験やハノイ国家大学の学生達との交流会なども可能であったであろう。

こうした体験は学生達だけではなく筆者にとっても非常に有意義な学びであった

6. まとめにかえて

現在日本においては日本語によるベトナム語教育は非常に発展しているものの、ベトナム語検定がない関係上共通テキストなども存在しない。各教育機関ごとの教員それぞれの能力と努力に任されている。それは教員にとっては自分なりに語学教授ができる反面、学生がどこまでベトナム語能力を向上させていっているのか、そしてそれが全国・世界レベルでどれくらいの能力なのか測ることができないという点があるのは否めない。それが学生達のモチベーションを上げる際の障害にもなっている。VSLにおけるTVSOLの理論と実践を日本の教員達も学ぶことによって日本におけるベトナム語教育の質のさらなる向上が期待できるのではないかと筆者は考える。

【参考文献】

Nguyễn Thiện Nam (a) “Phương pháp giảng dạy tiếng Việt cho người nước ngoài, trường hợp Khoa Việt Nam học và Tiếng Việt”, Hội thảo Những vấn đề thực tiễn của Ngôn ngữ học ứng dụng ở Việt Nam, Trường Đại học Khoa học Xã hội và Nhân văn, Đại học Quốc gia thành phố Hồ Chí Minh, 6/10/2017.

Nguyễn Thiện Nam (b) “NGŨ PHÁP TIẾNG VIỆT VÀ PHƯƠNG PHÁP GIẢNG DẠY NGŨ PHÁP TIẾNG VIỆT CHO NGƯỜI NƯỚC NGOÀI”, International Workshop Teaching Vietnamese to Taiwanese Students, Trung tâm Việt Nam học Đại học Thành Công (Cheng kung University), 4-5/11/2017.

小倉貞男 (1994) 『ヴェトナム戦争全史』 岩波書店。

白畑知彦・若林茂則・村野井仁 (2010) 『第二言語習得研究 理論から研究法まで』 研究社。

吉田晴世・加賀田哲也・泉恵美子 (2015) 『英語科・外国語活動の理論と実践』 あいり出版。

参考資料

2017 年 8 月に行われた大東文化大学国際関係学部短期現地研修でのクラスの様子

1. ベテラン教員による文法学習



2. 若手教員による様々な手法を用いた文法事項の応用学習



3.総まとめとして与えられたテーマごとにプレゼンテーション

